可視化情報学会 福岡講演会の開催にあたって

可視化情報学会会長 安藤 常世

Message of the President at the Opening of Fukuoka Meeting

Tsuneyo Ando

可視化情報学会福岡講演会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

ご高承のとおり、昨年2月に本会は流れの可視化学会から財団法人可視化情報学会に変わり、社会的存在として重きを加えると同時に、その対象の範囲も大きく拡大されました。本年は（暦年）第2年めとして、本格的な活動が開始される年と申してもよいかと存じます。すでに流れの可視化国際シンポジウム（1992）、第2回日中可視化情報シンポジウム（1992）、あるいは設立記念エキシビジョンと、大きな、そして多彩な行事へ向けて着々と準備が進められています。

7年まえに仙台で開かれた講演会も、その後大阪・札幌・名古屋・松山・金沢と継続され、学会の行事としてすっかり定着して、今回は福岡で開催されることになりました。この間における学会の歩みが二重映しのようには浮かんてくるような気がします。

ご存じのように、福岡は遠いむかしから国内外の交通の要地として栄えてきたところであり、太宰府がおかれていたことから窺われるように、九州一帯の中心地でありました。また、鉄と石炭に代表される大産業地域をひかえた都市でした。いわば、つねに先進的役割を果たしてきた土地であります。史蹟に富み、風光にめぐまれたこの地で開かれるこの講演会に、すこしでも多くの方々が参加してくださるよう祈ってやみません。

今回すでに70余編の講演申し込みがあったと伺っております。また特別講演として田村圓澄先生（九州歴史資料館館長、九州大学名誉教授）の「大宰府の成立」および中村泰治先生（九州大学応用力学研究所教授）の「ブラフボディ周囲流の可視化」が予定されており、見学会も行なわれることになっています。本講演会が真に意義ある行事として成功を収めることを期待しております。

終りに本講演会の企画、開催に多大のご尽力を賜りました実行委員長松尾一泰先生（九州大学教授）をはじめ実行委員会各委員ならびにご関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。